



～生きがいのあるその人らしい暮らしを送るために～

病院から在宅に帰ってこられてリハビリが「治療」から「支援」へ変わっていきます。

疾患や障害の治療が主体ではなく、「その方が暮らしている実際の環境」において、利用

者がより良く生きる為の「支援」を行っていきます。体調を崩し一時入院されて、退院後

いざ自宅での生活を送る際にご自宅で思うように生活出来ないケースは多々あります。

当事業所では機能改善のみならず環境面からのアプローチも重視して行っています。環

境を変えていくことで「出来なかったこと」が「出来ること」に繋がっていきます。



～症例紹介～



百寿、「自分の足で歩きたい」目標にむかって奮闘中！！

《原因疾患名》胸腰椎圧迫骨折・第12腰椎化膿性脊椎炎

以前は車椅子での自走をされて過ごされていたがH28年4月にベッドから転落して腰椎圧迫骨折にて入院。骨癒合が見られ退院となったが、寝たきり状態となりH28年7月より訪問リハビリ介入となりました。

＜リハビリ開始時＞

筋力低下、腰部の疼痛++。

寝返り・起き上がり・立ち上がりは全介助。

needs: 「また自分の足で立って歩きたい」

プログラム

目標を叶える為には、まず腰部の徐痛を図り座位姿勢の確保が必須でした。同時に環境面からは寝返り・起き上がりの際のベッド柵の使い方等を指導していき、

「寝たきり」→「離床」へ転換する。

【歩行訓練開始】1. 5M



【立位訓練開始】3W

【初回リハビリ時】



＜リハビリ開始から約2ヶ月＞

移乗や起立動作は自立にて行えています。また、腰の痛みは徐々に改善が見られ、歩行器をレンタルして本人の目標にされていた歩行訓練も開始しております。

「歩行が出来るようになったら外にでて木々を眺めたいね」などと新たな目標もおっしゃられています。